

バリアフリーニュース(第18号) 2025年度報告

児童から事業者まで幅広い対象に バリアフリー教室を実施しました！

国土交通省東北運輸局では、高齢者や障害のある方の社会参加を後押ししながら、皆さんが生活しやすい環境づくりを目指した取組を行っております。

その取組の1つである、「心のバリアフリー」(お互いに理解し合い、支え合う気持ち)の育成・促進を目的としたバリアフリー教室について、2025年度の取組の一部をご紹介します。

バリアフリー教室①

実施日:令和7年7月29日(火)

実施場所:青森運輸支局 2階会議室

参加者:青森地方気象台

主催:青森運輸支局

項目:視覚障がい者疑似体験

青森運輸支局では、以前から青森地方気象台との交流があり、相互に見学会等を開催していましたが、青森運輸支局において見学会を開催した際、所管事項説明や検査場見学に加え、新たにバリアフリー教室(視覚障がい者疑似体験)について実施しました。

体験の実施にあたり、会場となる2階会議室に点字ブロック(警告ブロック、誘導ブロック)を敷設し、安全に配慮した上で、点字ブロック上にはわざと障害物となるもの(カラーコーン)も設置しました。

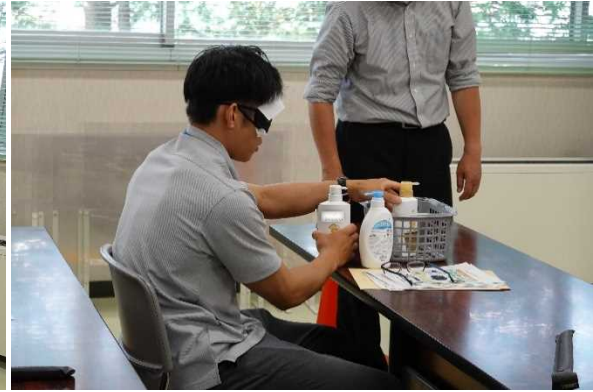
冒頭、青森運輸支局の担当職員から疑似体験や「心のバリアフリー」に関する説明を実施し、視覚障がい者役と介助者役の2人ペアで白杖体験を実施しました。

その後、シャンプーとリンスのボトルなどが「触覚記号」により、目の不自由な方も手でさわるだけで区別できるようになっていることを説明し、実際に触ることで、身近なもので視覚障がい者等に配慮したものがあつたことを知っていただきました。

体験者からは、「実際に目の見えない状態で杖を使って歩いたことがなかったので、こんなに不安なのかと感じた。そのため点字ブロックの上に物を置かないようにしていきたい」「感覚の1つを失うだけで生活に多大なる不便が生じるので、視覚障がい者のみならず、他の障がいを持っている方に今後より一層配慮していきたいと思う」などの感想をいただきました。



白杖体験の様子



「触覚記号」体験の様子

バリアフリー教室②

実施日:令和7年8月27日(水)

実施場所:東北福祉大学

参加者:リハビリテーション学科・ボランティア参加者

項目:心のバリアフリー講話、高齢者疑似体験、妊婦体験

令和7年8月に予定されている「24時間テレビ」イベントでの出店に向けて、当日の対応に必要な知識や機材の使い方を確認するため、ミニ講座形式で研修を実施しました。

心のバリアフリー講話では、町にある事例を交えながらバリアフリーについての理解を深めました。また、高齢者疑似体験では、体験セットを実際に装着し、起き上がり動作、廊下や階段の歩行、ホワイトボードへの氏名記入などを体験しました。妊婦体験については、装着体験は行わず、使い方や体験内容の説明を中心に実施しました。

今回の体験を通して、「授業で習うのと実際に体験するのでは感じ方や見方が大きく変わった。」、「高齢者の体の不自由さを体験することができ、24時間テレビのボランティアでは多くの方に高齢者の生活上の障害などを知ってもらえるよう頑張りたいと思った。」などの感想をいただき、24時間テレビイベントに向けて有意義な学びの時間となりました。

バリアフリー教室③

実施日:令和7年9月5日(金)

実施場所:楽天モバイルパーク宮城

参加者:仙台市立原ノ町小学校 4年生

協力:株式会社楽天野球団

NPO法人仙台バリアフリースターセンター

仙台市交通局

項目:バリアフリーについての講話、バス乗降体験(車いす体験)、
楽天モバイルパーク宮城の施設見学

楽天モバイルパーク宮城は平成21年度に「国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰」を受賞したスタジアムで、球団のご協力をいただき平成24年度から12回目となるバリアフリー教室を開催しました。今回は、講話と車いすでのバス乗降体験、楽天モバイルパーク宮城の施設見学を実施しました。

講話では、バリアフリープロモーターの岩城一美様を講師にお迎えし、日常生活の困りごとなどを

実体験に基づいて具体的にお話いただきました。また、仙台市交通局のご協力により、ノンステップバスを使用して車いすでの乗降と介助を体験しました。待ち時間には、スマイルグリコパークまでのスロープの走行を体験しました。

施設見学では、スタジアム内のバリアフリー設備について、(株)楽天野球団のスタッフの案内のもと、バリアフリートイレやスロープ、車いす席を見学しました。

今回の体験を通して、車いす利用者にとっては、日常の中の少しの段差や傾斜でも不便さにつながることを実感しました。そうしたバリアを少しでも減らすため、スタジアム内ではスロープや車いす席など様々な工夫があることを知り、利用者の立場に寄り添った環境づくりの大切さを改めて感じる機会となりました。



バリアフリーについての講話の様子



施設見学の様子



バス乗降体験の様子

バリアフリー教室④

実施日:令和7年9月13日(土)

実施場所:秋田駅前「アゴラ広場」

参加者:第28回「秋田バスまつり」来場者

主催または共催:公益社団法人秋田県バス協会

項目:視覚障害者疑似体験・介助体験

主催の秋田県バス協会をはじめ関係団体のご協力のもと、「秋田バスまつり」会場にて「交通バリアフリー教室」のブースを設け、来場者向けに視覚障がい者疑似体験、介助体験を実施しました。

視覚障害の体験者にはアイマスクを装着していただき、白杖をを使いつつ、介助者にリードしてもらいながら点字ブロック上を歩行し、バスにご乗車いただくまでを体験いただきました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの方々がブースに訪れ、視覚障がい者を体験された方からは、「点字ブロックや白杖がないと、怖くて歩けないと思った」といった感想を、介助体験者からも「賑やかな場所で安全に歩くには、介助者の大きな声での声かけが大事」といった気づきの声をいただきました。

「いろんな小・中学校で、この体験会を開催してほしい」との感想もいただき、今後もこのようなバリアフリーへの理解をより深めていく機会を提供していければと思いました。



視覚障がい者疑似体験の様子
(バスの乗降体験)

バリアフリー教室⑤

実施日:令和7年10月9日(木)
実施場所:山形県自動車会館、山形運輸支局
参加者:タクシー乗務員、山形運輸支局職員
主催:一般社団法人山形県ハイヤー協会
項目:視覚障がい者疑似体験、高齢者疑似体験、
妊婦体験



視覚障がい者疑似体験の様子

一般社団法人山形県ハイヤー協会様が主催する「ユニバーサルドライバー研修」に合わせ、山形運輸支局では、タクシー乗務員が利用者の多様なニーズや特性を理解し、接遇向上につなげることを目的として、以下の体験を行いました。

■ 視覚障がい者疑似体験

アイマスクと白杖を使用し、点字ブロック上の歩行を体験しました。視覚情報が遮断される中で、「声かけ」の重要性を体感し、安全な誘導・案内のあり方を学びました。

■ 高齢者疑似体験

手首や足首に重りを付け、関節の可動を制限するサポーターを装着した状態で、歩行、階段の昇降、さらにタクシーの乗降を体験しました。身体の動きづらさを実感しながら、高齢者が感じる負担を理解する内容となりました。

■ 妊婦体験

妊婦体験セットを装着し、体の前方に重心が偏る状態でタクシーの乗降を実施しました。動作のしにくさや転倒リスクを理解し、乗降時のサポートの必要性を確認しました。

■ 参加者の声

参加した乗務員からは、以下のような感想が寄せられました。

- 「イメージだけでは理解できない内容が、体験を通じて十分理解できた」
- 「停止中でも声かけがあるとありがたいと感じ、安心感があった。(視覚)」
- 「言葉選びに心配りが必要だと分かっているけど、実行することの難しさは体験しないと分からないと思った。」

今回の体験を通じて、参加者は利用者の状況に寄り添う接遇の大切さを再認識し、現場での対応力向上につながる貴重な機会となりました。



高齢者疑似体験の様子



妊婦体験の様子
(タクシーへの乗降)

バリアフリー教室⑥

実施日:令和7年11月6日(木)

実施場所:岩手運輸支局および岩手県自動車会館

参加者:岩手運輸支局職員、岩手県自動車会館職員

主催:岩手運輸支局

項目:高齢者疑似体験



高齢者疑似体験の様子
(申請書への記入体験)

運輸支局職員と関係団体職員の方にも参加いただき、庁舎内でのバリアフリー教室を開催しました。心のバリアフリーについての講話のあと行った高齢者疑似体験では、体に重りやサポーター、ゴーグル、ヘッドホンを着用した状態で、普段手続きにいらっしゃる方が利用する窓口や階段を歩いてみたり、実際の申請書への記入体験をし、普段との違いを体験しました。参加者からは「高齢者等の大変さは頭ではわかった気でしたが、実際に体験してみると全然違った。」「この状態で階段の上り下りはとても怖い。」「困っている方がいたら勇気を出して声をかけていきたい。」などの感想がありました。実際に体験してみると得た気づきを窓口対応へも活かしていきたいと思います。



心のバリアフリーについての講話の様子



高齢者疑似体験の様子(構内の歩行)

バリアフリー教室⑦

実施日:令和8年2月24日(火)

実施場所:伝承千年の宿 佐勘

参加者:旅館従業員

主催:東北運輸局(共生社会推進課、観光企画課)

協力:日本旅館協会東北支部連合会 伝承千年の宿 佐勘

項目:車いす体験、視覚障がい者疑似体験

今回、宿泊施設におけるバリアフリー対応の向上と、誰もが安心して観光できる受入環境整備を目的として、伝承千年の宿 佐勘様のご協力のもと、旅館従業員を対象としたバリアフリー教室を実施しました。当日は、高齢者疑似体験セットを着用しての車いす体験と、アイマスクと白杖を使用した食事体験・歩行体験を行いました。

車いす体験では、ロビーから客室までスロープやエレベーターを使用して移動し、客室内では寝て起きなどの生活動作を体験しました。また、ショッピングプラザにおいては、車いすに乗ることで棚の上の商品が見えにくいなど、普段とは違う視点や不便さを体験しました。

さらに、視覚障がい者疑似体験として行った食事体験では、実際に食べ物は使用しないものの、バイキング形式を想定して介助者が配膳位置を説明したり、取り分けの動作を再現したりするなど、食事介助の流れを疑似体験しました。その後、階段の昇降や館内の歩行も体験し、視覚が遮られた状態での移動の大変さと介助者のサポートの重要性について理解を深めました。

参加者からは、「車椅子を利用することで、その視点からの見え方や行動の不便さを感じ、車椅子を利用される方の立場になって、改善出来ることを実施していきたい」、「お客様の身になって施設内を回ると、通常の通路が違う景色に見え、今後の接客の際に気を付けたいと思った」などの感想をいただきました。



車いす体験の様子



視覚障がい者疑似体験の様子

バリアフリー教室⑧

実施日:令和8年2月27日(金)

実施場所:太平洋フェリー(株)仙台港営業所

参加者:仙台市立柞江小学校 4年生

主催:東北運輸局

協力:太平洋フェリー株式会社、仙台市ボランティアセンター

項目:車いす体験、船内のバリアフリー施設等見学

今回、公共交通の中でも移動空間と生活空間を併せ持つフェリーの特性を活かし、バリアフリーへの理解を深めることを目的として、太平洋フェリー様のご協力のもと旅客船の「きたかみ」を使用し体験学習を実施しました。

車いす体験では、児童が2人1組となり車いすに乗る側と介助者役を交代しながら、傾斜のある搭乗橋の走行、船内のバリアフリー対応の客室やシャワー付きの多目的化粧室などフェリー特有の環境や車いす利用時の移動の課題について理解を深めました。

また、太平洋フェリーの職員よりバリアフリー設備について説明を受けた後、実際に船内を見学し、フェリーにおけるバリアフリー化の重要性を学びました。

児童からは、「介助者役の人が声をかけてくれると安心できたため、声かけの大切さがわかった」、「フェリーの中にはたくさんのバリアフリーの工夫があることに気づいた」などの気づきがありました。



車いす体験の様子



講話の様子

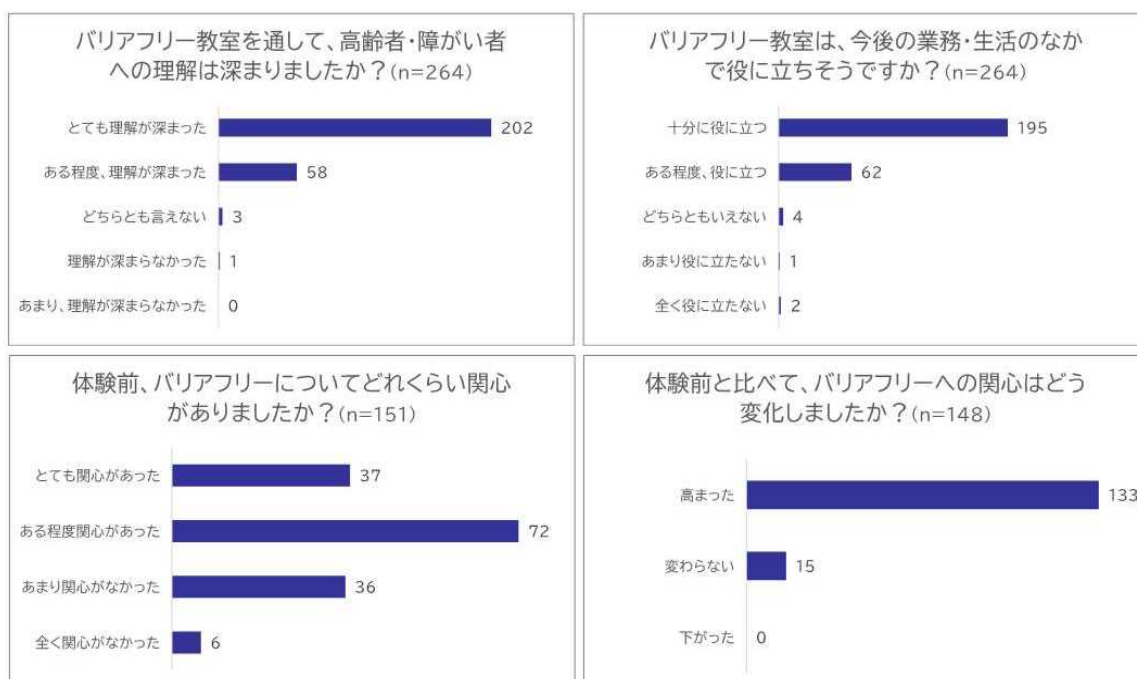
令和7年度バリアフリー教室アンケート結果

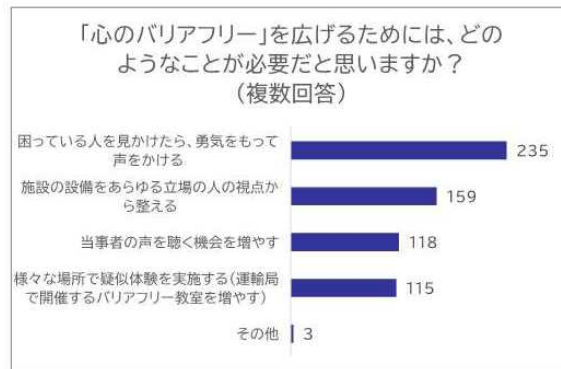
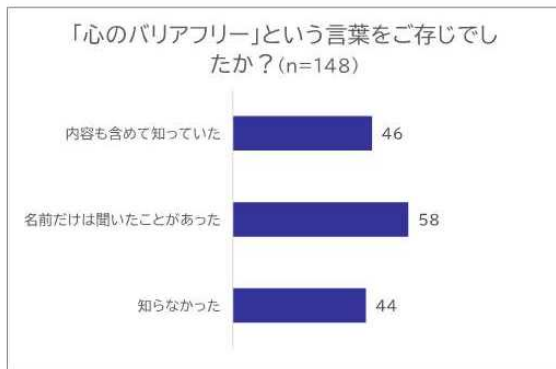
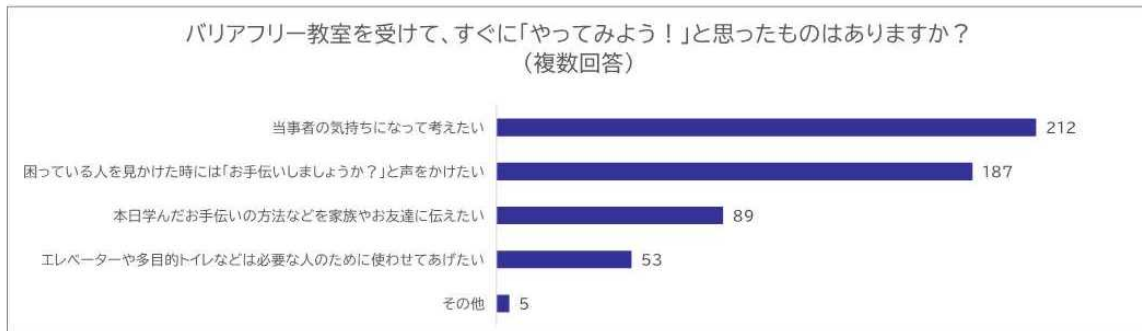
令和7年度はバリアフリー教室の実施後にアンケートを実施し、参加者や学校の先生方、ご協力いただいた方々から体験による今後の生活・業務への有用性、さらに改善点など幅広いご意見をいただき、その結果をグラフにまとめました。

●参加者向けアンケート結果

※回答者は中学生～大人(小学生は含まれない)

※年度途中からアンケート設問を追加したものや、回答漏れがあるため回答者数は一致しない。

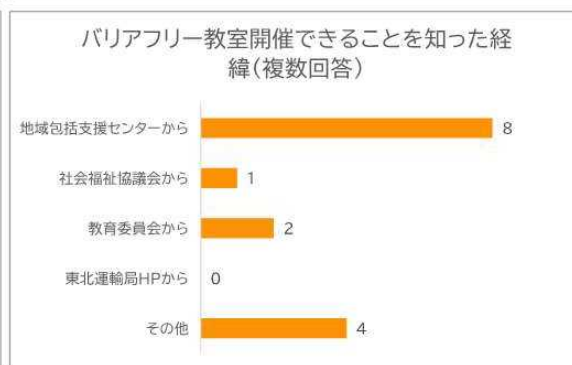
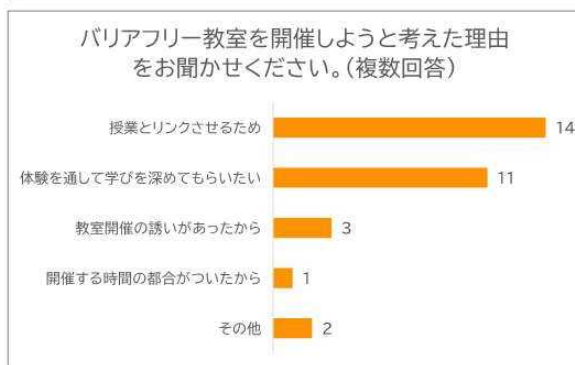




●先生(依頼者)向けアンケート結果

※回答者は主に小学校の先生

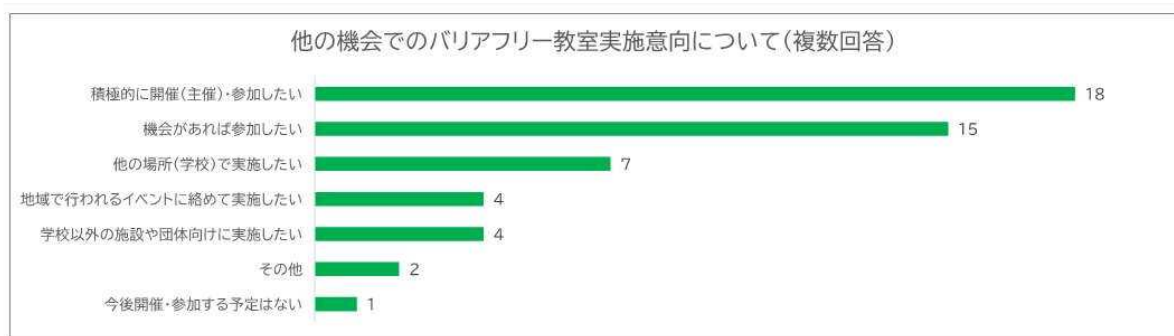
※一部アンケート設問を削除した回があるため、回答者数は一致しない。





●協力員向けアンケート結果

※回答者は主に小学校のバリアフリー教室に参加した、民生員の方など



このニュースは、バリアフリー関係の話題を中心にお届けしています。
お問い合わせがございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。



東北運輸局 交通政策部 共生社会推進課
〒983-8537 仙台市宮城野区鉄砲町1番地
仙台第四合同庁舎3階
TEL 022-791-7513